

CD 1	1	途中下車	宮本輝	8
CD 1	2	愛情としつけ	河合雅雄	12
CD 1	3	贈るかたちと意味	野田正彰	22
CD 1	4	鞆	安部公房	28
CD 1	5	平成おとぎ話	河合隼雄	34
		(一) 日本人は「諍」と「友」の両立が難しい		
		(二) アイヌの昔話「父親殺し」の物語		
CD 1	6	「主人」から「夫」へ	寿岳章子	42
CD 1	7	安楽死ということば	松田道雄	48
CD 2	8	わすれ傘	吉田道子	54

CD 2	9	リーダーシップ論	西堀榮三郎	68
CD 2	10	魚の骨	山田稔	84
CD 2	11	痛いといわなければ、痛くないのと同じです	柳澤嘉一郎	90
	12	国字作成のメカニズム	阿辻哲次	98
	13	足の表現力	山口昌男	106
	14	ソムリエの妻	加藤周一	114
	15	自然という書物	志村ふくみ	120
	16	鼻	芥川龍之介	126
	17	檸檬	梶井基次郎	136
CD 2	18	源氏物語（冒頭）	瀬戸内寂聴	146

## 途中下車

宮本輝

社会人となった筆者が二十歳前後の頃を回想した作品

02

いまから十三年前、私は友人と二人して、ある私立大学を受験するため上京した。というより、上京するため確かに東京行きの列車に乗ったのである。世の受験生と同様、私たちもまた幾分の不安と心細さを抱いて、窓外の景色を眺めていた。そんな気持ちをやわめようとして、自然に口数だけは多くなっていった。ところが、京から乗り込んできたひとりの女子高生が私たちの隣の席に座ったことで様相は一変した。減多にお目にかかれぬほどの美人だったからである。私も友人も何となく態度が落ちつかなくなり、口数も減っていった。友人が意を決してその女子高生に話しかけたのは静岡を過ぎてからであった。

彼女は京都の大学を受験して、伊豆の大仁に帰る途中だった。友人はそっと私に耳打ちした。

「伊豆の踊り子やなア」



問1 どのように「様相は一変した」のか。

注1

伊豆 静岡県伊豆半島と伊豆諸島を占める地名。

注2

大仁 伊豆半島西部にある町。

10

なぜ踊り子なのか判らなかつたが、私は、うんうんどうなずき返した。彼女もだんだんうちとけてきて、三人が無事に受験に成功したら、再びどこかで逢つてお祝いしようなどと言いだした。そして私たちの心をさんざん乱したまま、艶然たる微笑を残して三島で降りてしまった。

「俺、もう東京の大学なんかやめにして、京都の大学を受けようかなア……」  
とまんざら冗談でもなさそうに友人は呟いた。

「俺もさつきから考えてたんやけど、ことしは受験しても多分落ちると思うわ。一年浪人して、じっくり実力をつけて、来年にそなえたほうが賢いでエ」

私もまた本気でそう言った。話はあっさり決まった。私たちは親からももらった東京での宿泊費を伊豆の旅にまわすことにして、そのまま熱海で降りてしまったのだ。何とも親不傘な息子であった。そしてこれが私の人生における最初の途中下車であった。私たちはいい気分伊豆の温泉につかりながら、大仁のどこかにいるであろう美しい女子高生を思った。住所も電話番号も教えてもらっていたが、私たちはその紙きれを見つめるだけで何もしなかった。三日後、いかにも試験を受けたきたような顔をして家に帰った。

それから半年たった頃、友人の父が死んだ。彼は家業の運送店を継ぐために、進学を断念した。

注3

伊豆の踊り子  
川端康成の小説、一九二六年発表、二十歳の「私」と「踊り子」との叙情的青春小説。

注4

熱海  
伊豆半島北東岸にある市、全国有数の温泉観光地。

問2

ここでいう「途中下車」とはどういうことか、また、「最初の」とあるが、どのような意味が込められているか。

問3

「何もしなかった」二人の心情はどのようなものか。

15

10

5

1

私はといえば、受験勉強などそっちのけで、小説ばかり読みあさっていた。だが二人の心の中から、列車で知り合った女子高生の面影は消えなかった。私たちは遠うとその話ばかりしていた。彼女が京都の大学に受かったのかどうか気になって仕方なかった。ある日、ジャンケンで負けたほうが、彼女の実家に電話をかけようということになった。私が負けて、ダイヤルを回すと、ちょうど何かの用事で京都から帰って来ていた彼女が出てきた。無事試験に合格し、丸太町の親類の家に下宿しているのだという。

「ところで、あなた、二人のうちのどっち？」

と彼女が訊いたので、私はほんの冗談のつもりで、友人のほうの名を言った。しばらく考えてから彼女はこう囁いた。

「違うのなら、あなたと二人だけで逢いたいな」

私は黙りこくったまま、じっと電話をにぎりしめていた。そしてそのまま電話を切った。もっとどうまい方法があった筈なのに、十八歳の私は打ちひしがれて、ほかにどうしていいのか判らなかつたのである。

「なあ、どうやった？ どない言うと思った？」

友人は目を輝かせて何度も訊いた。私は嘘をついた。彼女は受験に失敗して勤めに出ている、もう電話などしないで欲しい、そう言ってガチャンと電話を切られた

注5

丸太町  
京都の東西にわたる通り  
の名。

10

問4

「電話を切った」ときの  
「私」の心情はどのような  
ものか。

15

と説明した。

「ふうん、見事にふられたなあ」

友人はペロリと舌を出して笑った。

このことは、いつまでも私の中から消えなかった。生まれて初めての失恋が、私の心に傷を残したというのではない。私は自分のついてきた数多くの嘘の中で、この嘘だけを決して自分でも許すことができなかった。私がいまそれを文章にできるのは、につききり恋敵であるその友が、交通事故で死んでからもう十年もたったからである。

出典 「二十歳の火影」(講談社・一九八三年刊)

著者紹介 宮本 輝(みやもと てる)

一九四七年、兵庫無生まれ。小説家、ドラマティックな作品が多く、映画・テレビ化されたものも多数ある。代表作に「優駿」など。映画化された「泥の河」、「曇川」、「道頓堀川」は川三郎作と呼ばれている。

1

問5

「このこと」とは何のことか。またなぜ「いつまでも私の中から消えなかった」のか。

ま
と
め

筆者は、なぜ「途中下車」というタイトルをつけたのか。

「途中下車」は、人生にどのような意味をもたらすか。

## 愛情としつけ

河合雅雄

サルを通して見た、親子間の葛藤と自律について論じた  
自然科学の評論

04

## 葛藤—母子関係の変化

ニホンザルの子育てを見ていると、母親が子どもの行動能力に応じて親子関係を変化させていくのに感心する。ニホンザルに限らず、すべての動物にとっては、成長してから独立して生活する能力を身につけることが、最も大切である。幼いときは、子どもは完全に母親に依存しなければならぬから、母ザルは子どもの保護に全力を傾ける。しかし、成長するにしたがって、母ザルから離れて自律的な行動を身につけさせねばならない。愛着と自律という一見相反したものを適当にブレンドして育てることを、サルの母親はじつによく知っているかのように、子育てを上手に行っている。

生後七日目ごろから、ニホンザルのあかんぼうはしきりに母親から離れて自由な行動をとろうとする。まだ運動能力は未発達で、とくに足の動きは不十分だから、



問1 サルの母親は「子育て」をどのように上手に行っているか。

手で体を引きずるような歩き方だが、それでもあかんぼうはどこへでも出かけて行くこととする。生後二十日もたつと、よちよち歩きだけれども、かなり遠くへ行くことができる。しかし母親は、生後一カ月まではぬけ出そうとするあかんぼうの足を引っぱったりつかまえたりして行動を拘束し、自分の周り四―五メートル以上は決して離れさせない。

5

一カ月もすぎると、あかんぼうは大変活発になる。木登りをしたり、なんでもかじつてみたり、好奇心のおもむくままに行動する。自発性が高まるにつれて、母親との関係も微妙に変化していく。移動するときは、あかんぼうはいつも腹に抱かれていたが、しだいに母ザルの腰に乗って運ばれるようにしつけられる。しかし、初めはそれができず、首や脳腹にしがみついたり、背中にかきついたりする。母ザルはそれを手で介添えして、正しい位置に乗るようにしむけてやる。母ザルの腰の上に乗って運ばれるのだから、簡単にはいかず、何度も失敗しながら練習して覚えていくのである。

10

母ザルはときどき手で抱きかかえるのをやめ、あかんぼうを放っておいたまま移動しかけることがある。あかんぼうにすれば、母親から突き放されるという初めての経験に出会うわけで、どうしてよいかわからず泣き叫ぶ。だが、こういうときは母ザルは振り返ったり立ち止まったりするが、決して手で抱きかかえはしない。「もう自分からお母さんの腰に乗りなさい」という自発的行為を要求するのである。

15

## 問2

「微妙に変化していく」とあるが、どのような変化か。